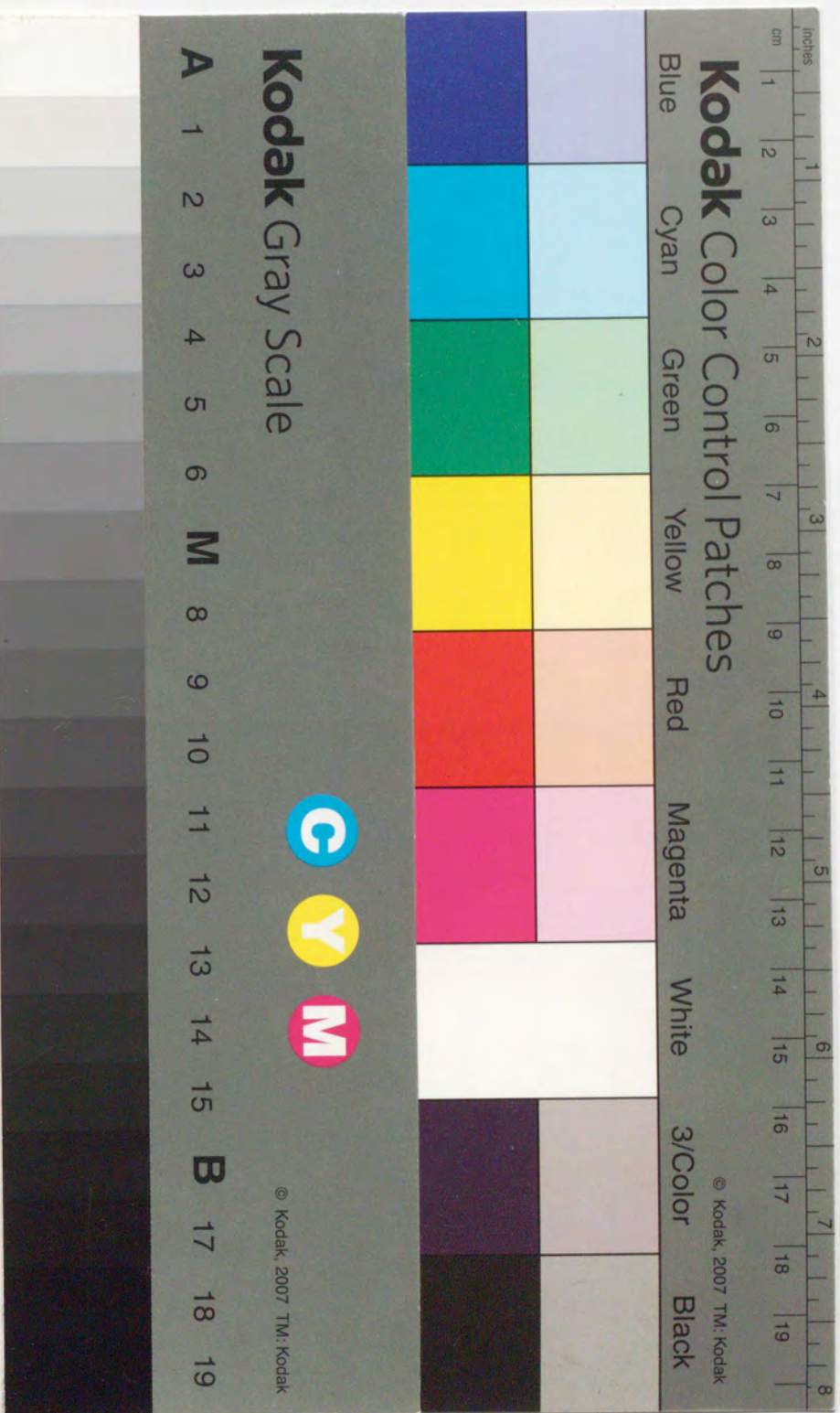
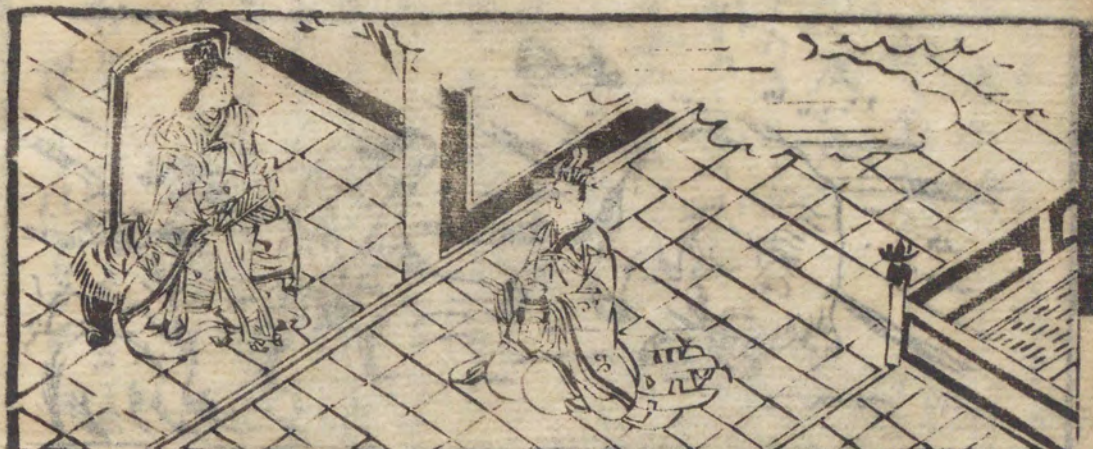




秋

大舜父ハ瞽叟トシテ瞽ナリ母ハ朱しゆ有才ハ敏トシテ
索もとねりふくき九孝行也ト告ぐまへに其名時乃
帝堯えうハ笑わらて初めハ甥いひなト記民也トすト後ト
ううとを法しり堯の禪トシテ天子ト爲なる即すなはち

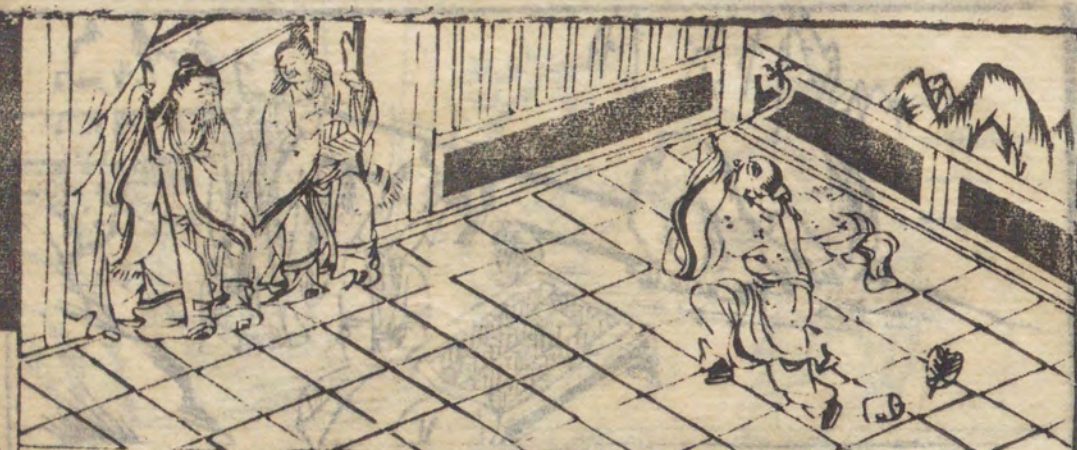


漢文帝

仁孝隆天下 魏冠百王

漢廷事賢母 湯藥必親嘗

文帝ハ漢の高祖の太子なり母ハ薄太后と云ふ
 文帝ハ母に孝を盡して天子の尊厳を尊として
 仁孝隆天下と云ふは天子の尊厳を尊として
 湯藥必親嘗と云ふは母の病を治すに
 湯藥を自ら試みたる事なり



老萊子

戲弄學姪癡 春風動綠衣

雙親死に矣 在色滿庭園

老萊子ハ楚王の人なり其母を孝に事ふ
 母死すといふに余小なりと云ふなり
 幼穉の時の衣裳を着て児戲の如く
 庭園に遊ぶ事なり

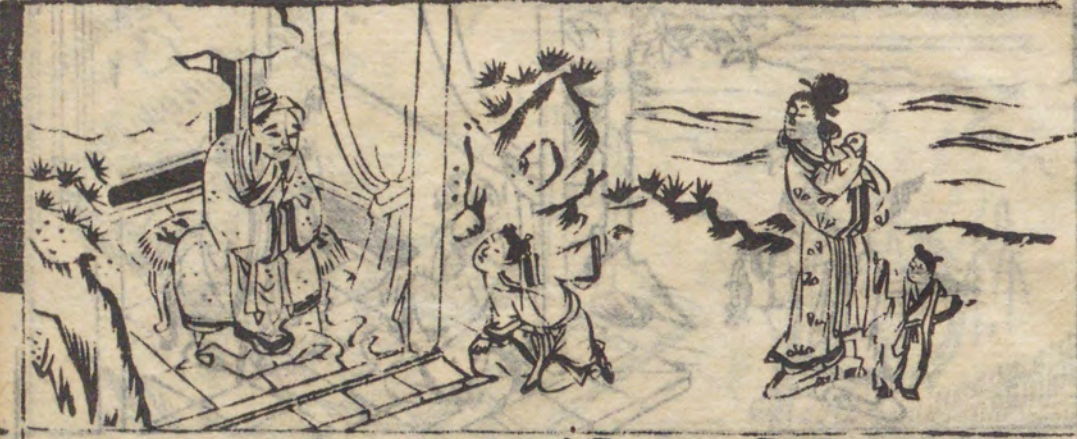


黄香

冬月温衾暖父天扇枕凉

兒童知子職子古一黄香

黄香ハ江夏の安陸といふ郡の人なり九歳で母を失ふ父も孝行が故に之を失ふ父の計りて之を養ふに力をつくすなり冬ハ父を暖むて夏ハ父を扇むて之を涼むなり此の職なり

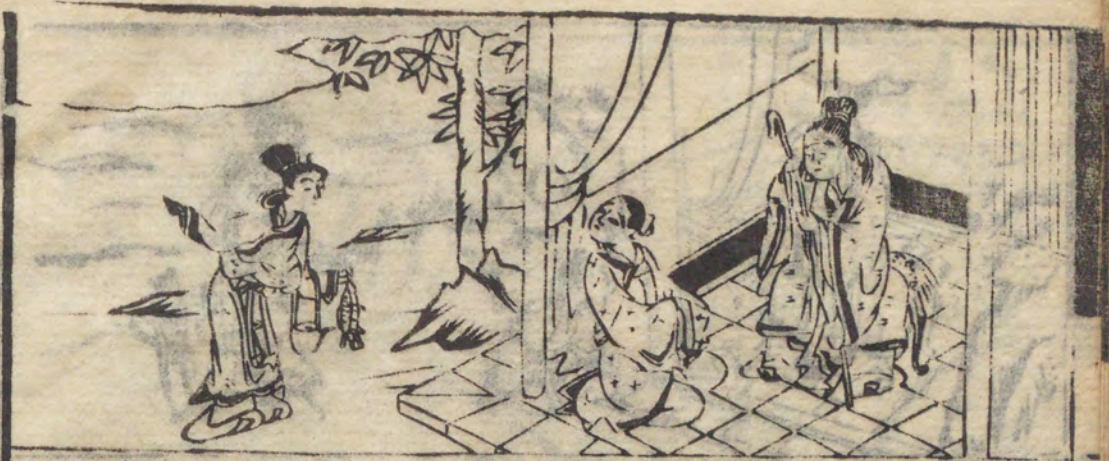


関子騫

関氏有賢良何曾怨曉娘

昔前留母在三子老風前

関子騫ハ不孝といふて卑く母をけしきなり父後の妻が要りて二人のとりは後母関子騫と名を我より愛せしむる父を去んとて去りてけしきと関子騫父と縁て母をけしきハ子騫といふなり

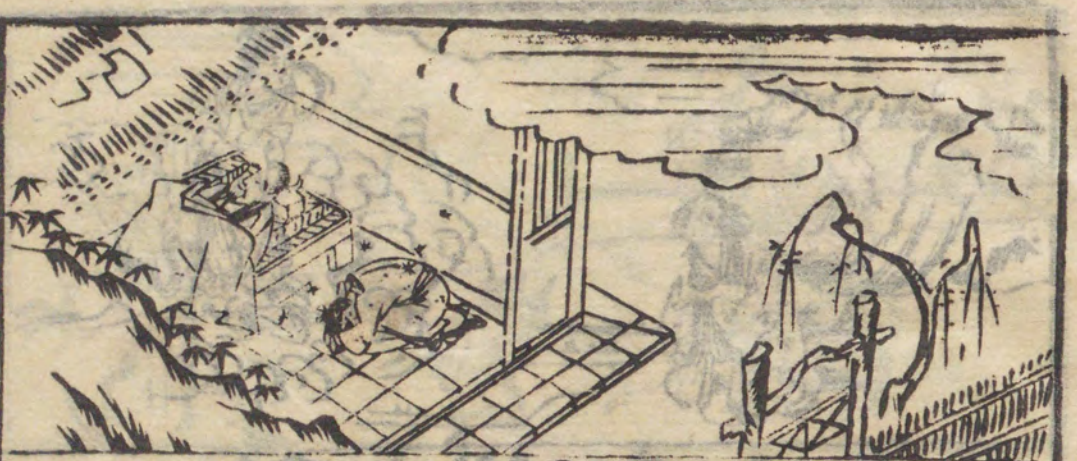


姜詩

舍側身泉出一朝雙鯉魚

子能知事母婦更孝於姑

姜詩妻と母と孝あり一朝妻ふ命とてさき
 不の甘泉と汲ふところ小大泉ふあそくうかきけ
 色いあふゆめてきりぬ事是とあらためりし
 食物成りてはとて姜詩感て再び事なり



吳猛

夜無帷帳蚊蟲不敢揮

忠渠膏血飽免使入親園

吳猛ハ暑より孝行とあきなり家多し
 蚊蟲の多しとて蚊ハ帷帳もすれぬを身
 親と蚊蟲の多しとて蚊ハ帷帳もすれぬを身
 蚊とて親の身おゆるさしとて蚊ハ



董永

發貸方兄天姥酒上迎
織作擅備主孝感盡裂
董永孝行居りりふ又死してふい
ま金を財用かしくふりてふいり
て人傳うてまのり物と織董永の時
とりりるくふはくのひりりや



唐夫人

孝敬崔家姑乳姑最盟統
世恩無以報預得子孫如
崔南といふ人の妻なりとてその子老て
食ふハよのなつて夫人給ふち成るる
まゐりたりとありふたふくくも老い
の姑いのちさうけきハハハハ



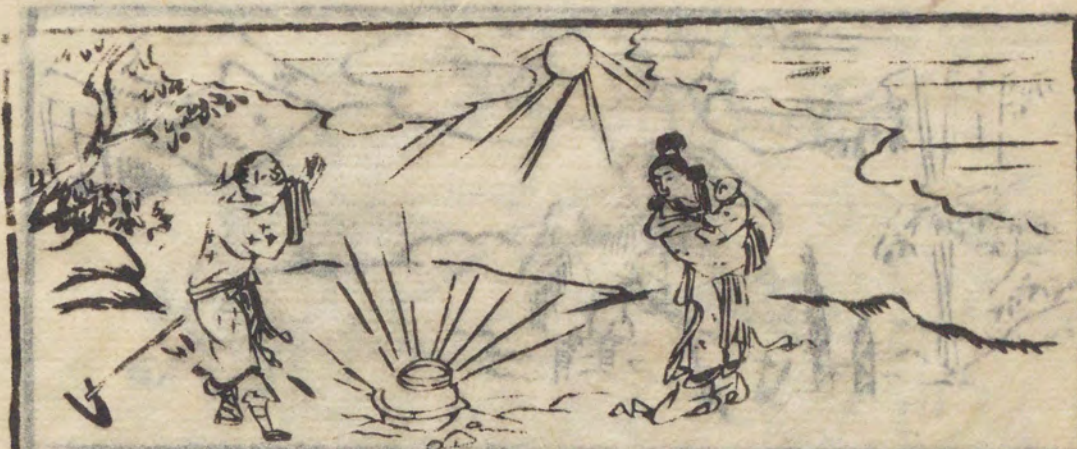
揚香

深山逢白額努力搏腥風
 父子俱無恙抗身飢口中
 幸十而得父とらもに山中に入つて
 うに虎食ふうとて揚香又はくといん
 として会ひしとて揚香又の巻を
 とて我れくたうしていふひに虎食を



孟宗

泪滴朝風寒蕭々竹數竿
 須臾春笋出天意報平安
 母病危し食のあらずといふに母は竹の葉を煮て食ふとて病癒ふ
 母の病を治すといふに母は竹の葉を煮て食ふとて病癒ふ
 天も孝を報ふといふに母は竹の葉を煮て食ふとて病癒ふ



郭巨

貧乏思儀給埋児預母存
 黄金天所賜光輝照寒所
 其母孫と愛して己の食地と分してをり郭巨
 まうに此外に食地を母の食地とけり
 其父て曰ふふ、唯をてり母乃食地とけり
 黄金乃一釜也



朱壽昌

七歳生離母冬高八十年
 一朝相見面在字動是
 朱壽昌母年八十母とてにけり
 官派をてり、なつ称さればあふめがらひ
 其母の年七十あるとてり



曾冬

母指終方啗兒公痛不禁
負新由來啖骨肉至情深
なごうゆりやればその母を冬かゝるゝとゆふ
指とつらつらととり母子骨肉のふたふた
その痛を通しとてさうを冬はれ子に
冬冬山ふたふたと採て病あふに冬にひひ
なごうゆりやればその母を冬かゝるゝとゆふ



王祥

继母人間有王祥て下無
至今河水上一片冰未
継母にあらざれば大孝のこころに
生魚とてを煮る水のうへに氷して水と解
してうやとらへんとゆりたり
下にゆりたりを煮るといふ



蔡順

黑棧奉親園啼飢泪滿衣
赤眉知孝順牛米炊香飯

素の突とどろいて母を孝とておろけりけり
 知てあがすとも人となすむいあひ素が今
 あふりけり素の突とどろいて母を孝とておろけり
 と感して即ち牛米の食料とせりけり

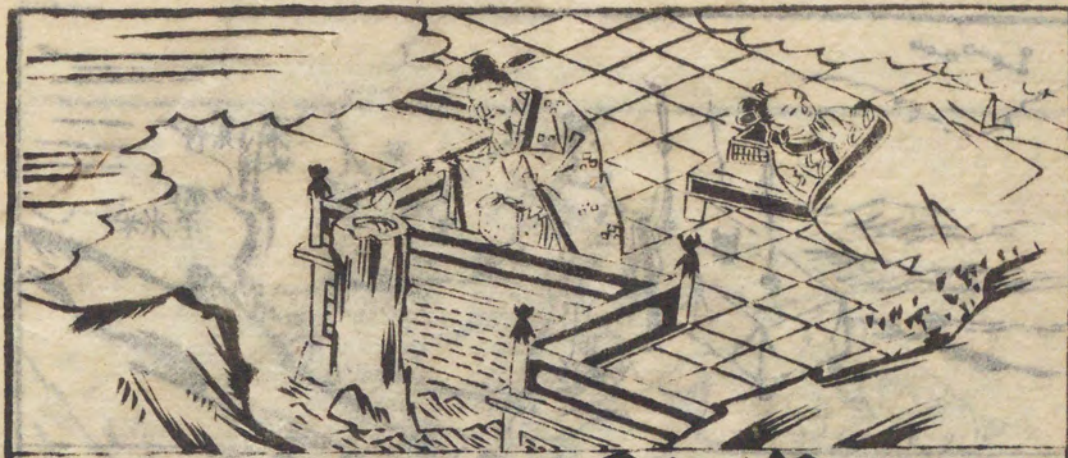


東黔婁

到縣來自日棲庭遭慘源
預知身死小製徒憂心

扇接縣やいふ所の名をきりて居るやうに
 ひかえておるが故に入つておるを果して父
 大痛めて命あやうのりたり
 乃ち身死しけり

山谷



生顯聞下平生孝親
 汲泉消渴番婢高堂更
 母の病をふあそく人よもせむ
 びとにいちりの笑せむ
 看病せむ

王褒



慈母恒安雷氷魂宿夜
 阿香時一震到夢迷手廻
 具母の心て雷とおそれるや
 雷の音をききて夢の心
 阿香の時一に震る夢の心
 迷ふ手廻る



丁蘭

刻本為慈母形容在自身
害之依子恒安早考之親



張孝張禮

偶佳緣林泉代某云瘦絕
人皆爲早中張氏古今稀

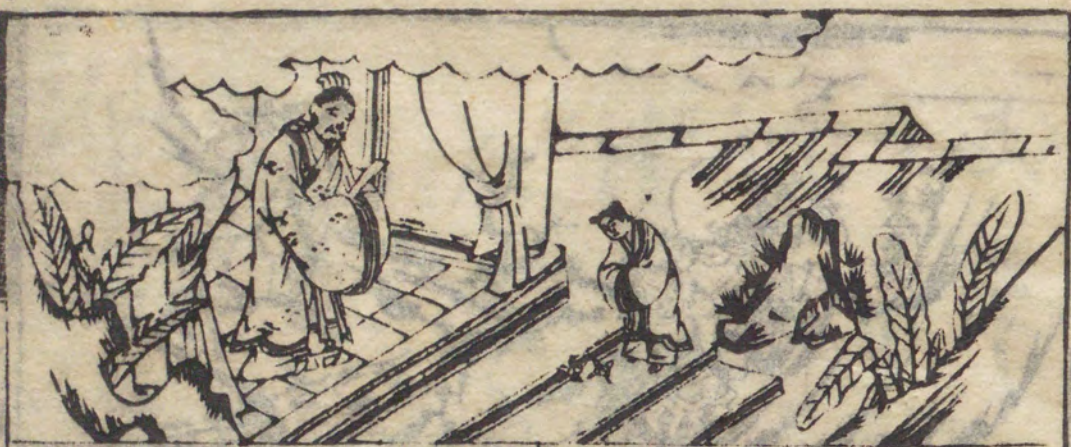
張孝張礼ハ兄也ナリ八十ニある母と云ハ
本の実とむいハ山ノ下ニ盗人ハあり
棄て食んと欲セバ母又金とめてんあやうし
家より出づ又ありて妻をせん云々盗人



田真田慶田慶

海底紫珊瑚 群芳終不敗
春風死滿樹 兄弟復同春

兄弟二人有り父死しての後財室と云ふ
いけくそり又春の樹と云ふありけり
と云ふありてと云ふといふも復た
二人もつぎもと云ふ同春と云ふ

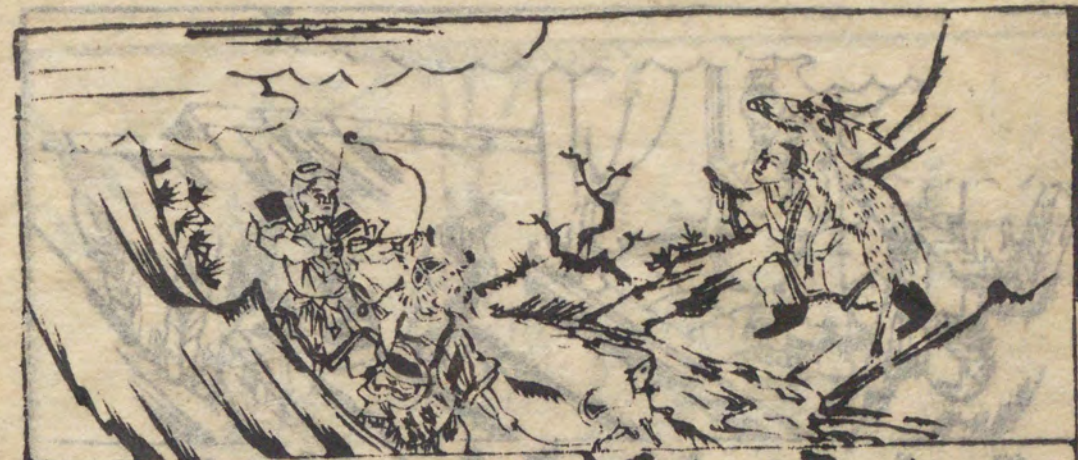


陸續

孝悌性人間六歳児

袖中懷繡橘遺母報含飴

先づあふあふと云ふ
を述べと云ふのより
むと云ふ入てゆりて
と云ふいけくそり
母あつらん



判子

先親恩麻乳身掛褐毛衣

若不言孝信山中若葉落

親お眼あきぬ麻の乳と糸ひけき
判子指毛の衣と糸ひけき
の中へまゐり入て乳と糸ひけきに
やまゝありて命をさし

二十四孝

夫也一有る所乃二十四孝の細字
判子便なる今茲に
判子正一太字子正一太
漢とん重雅の一風と
無義のく

安永五年正月吉日

竹所
須々屋

仙臺書房

國分町十九軒

池田屋源藏
本屋治右衛門

南梁

仲町

嘉永六年

加賀

丑三

月

亥

符

日

渡

邊

往

大字

繪

拔

南

梁

仲

丁

大

丸

店

式

十

四

孝

加

賀

傳